

4円ハイミドルに集中しているターゲット顧客とは

現在のハイミドルは、Re：ゼロ、エヴァンゲリオン、ガンダム

といった機種が中心になり稼働しているわけですが、

Re：ゼロのスタートは、2012年です。

エヴァンゲリオンのスタートは、1994年です。

ガンダムのスタートは、1979年です。

ターゲットの時代背景として考察してみると、

花の慶次は、1990年にスタートしています。

北斗の拳は、1983年にスタートしています。

キン肉マンは、1979年にスタートしています。

原作となっている漫画がスタートした時代とは、

そんなに強い関係性があるわけではないようですが、

それでも緩い関係性があるのではないかと思います。

その時代を生きた人の思い出は人生そのものです。

その当時流行った音楽やTVドラマ、電気製品や車など、

外部環境は人の心理（価値観等）に影響を与えることが

分かっています。

とくに青春時代の環境からは強い影響を受けるため、

その時代を代表するようなモノは記憶の奥底に残ります。

2025年問題を考えても、団塊の世代が青春時代だった

次期のコンテンツは、別の意味も含めて刺さり辛いのではないかと予想しています。

1949年に10歳から20歳を加算した時代、

つまり1959年から1969年までのコンテンツは、

共感としての賞味期限切れになる可能性があります。

団塊の世代ジュニアの1975年に10歳を加算した、

1985年代からのコンテンツということになりますが、

ジュニアは今年、51歳から47歳です。

社会的にも働く上での中心人物ということになります。

このジュニアの子供世代ということになれば、

2000年生まれ前後ということになり、Re：ゼロなどの

コンテンツがちょうどその中心になるのは偶然でしょうか。